令和元年度協同農業普及事業外部第三者評価会議

普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言、提言

1　普及指導活動の体制について
（課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上の取組等を含む）

生産技術指導と経営指導に加えて、人と人、組織と組織をつなぐ役割が求められてきていることが分かる。むしろ比重が後者のコーディネーター機能に移りつつある中で、普及員の育成をいかにすべきかの検討が必要。
指導員の方々が、プロジェクトリーダーの研修をされているのであれば結構ですが、そうでなければ研修に入れるべきではないかと感じた。情報の収集方法や使い方を学べる研修を重ねることで、状況によってどの関係機関とつながるべきかが見えてくる。これはその方の資質にもよるので、逆に言えば、研修して成果の出せない方に指導員は向いているのか？ということになってしまうが、現在の農業の状況に危機感を持って取り組まれているのであれば、指導員として適性のある方をしっかりと育てることに重きを置かれることを望む。
普及員の年齢別構成で 50 歳以上が 43%となっており、10 年後を見据えた若年層の育成が大切になる。これは JA グループの営農指導員でも同様の傾向にあり、知識・技術・スキルなど交流研修なども検討してみてはどうか。
普及員の長期的な育成と行政や試験場との人事ローテーションとの整合性を考える必要がある。普及の中での担当地区異動も課題の取り組み状況を踏まえる必要があるが、担当が代わっても活動の蓄積が円滑に継承される仕組みを作ることが重要ではないか。
試験場と普及などのジョブローテーションは必要ではないか。試験研究は基礎研究的な要素は別としても現場の課題解決、技術普及に向けた試験研究であるべき。試験研究と普及指導の両面を理解・経験するバランスも必要ではないか
新規就農者を定着させるには、単なる技術指導だけでは難しく、役場、農協、地元農家（特に師匠さんとなる人）のサポートが不可欠。そのマッチング、コーディネートの仕事を普及指導員が担っていることが分かった。独り立ち後のフォローもしっかりされていたが、指導員のコミュニケーション力なども大きく影響すると感じた。発表事例については、1 人で対応できるのか？何人の農家を指導員 1 人で担当するのか、そのあたりが心配になるものもあった。
指導員の方の一人に係る責任が重いのではないかと感じた。
農業者との意思疎通を図り課題解決のためのモチベーションを継続させるためには、県全体で担当指導員の方を支えるシンクタンク（上下関係無し）があることが望ましい。また、指導員の方は、「指導者」ではなく、農業に特化したコンサルであると立場を意識された方が農業者と共にあるという肌感覚で、協働で普及事業を行っていけるのではないか。
はつらつ農業塾の事例では農協、市、出荷部会、普及課が連携して新規就農者を育成しており、関係機関との連携は十分行われていると思う。

２　普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む）

課題の選定は今日的な問題と関り概ね適正。対象の選定や普及活動の計画については、課題に関わる生産構造や市場構造の把握をもっと深めて、ターゲットの絞り込みや目標設定の具体化をすることが必要と思われる。要は、いかに現状を分析して、どこに焦点を据えて普及活動の戦略を立てるかが重要である。 新品種や新技術が求められる背景は出されているが、掘り下げた分析（例えば技術格差の実態とその要因分析など）が必要であり、その導入が他部門に及ぼす影響を含めて経営全体がどう変化するかの視点がやや弱いようにみえる。
普及活動を行うにあたっては単に一農業者のみのメリット・成果だけではなく、愛知県の農業全体に対するメリット・成果を意識する必要がある。テーマの選定、発表の内容など全ての部分に「愛知県全体への波及効果」を明示していただきたい。このことは、一普及員だけではなかなか難しいので、組織として情報提供や協力体制などのサポートをしっかりしていくことが必要。
県育成の新品種の普及について、普及の戦略がよく見えない。そもそもの開発コンセプトの問題か？
目標設定については、対象者と相談しながらされているとは思いますが、早期達成したときに、次の目標をそのまま数値が伸びていけば良いということでなく、農業者として、働き方も含め、何を伸ばして何を削っていくべきか時期を逃さず指導できるとよいと思った。
就農者の高齢化、新規就農者の確保、新品種の育成、高品質技術の取組などの目標設定は良いと思う。県がせっかく開発した良い物をなるべく多くの農家が認めてくれるよう努力が大切ではないか。
特に農業団体とは産地振興や営農指導など方向性をしっかり合わせたうえで一体的に取り組みを進めていただくようお願いしたい。
食と緑の５か年基本計画に基づく品目別振興方針となっているか、その方針に沿った実践計画としての普及指導活動となるよう体系化された計画となっているか？
はつらつ農業塾の事例は、プロの就農者を育てるという目標が明確で良い。青年就農給付金制度の活用、普及指導員がサポートする仕事量などを考えても、プロとして農業に取り組まない人に対しては、過ぎる。給付金制度そのものが国の予算削減でどうなるかわからないとのこと。農業塾の仕組みを維持する上でも、維持が不可欠と感じる。
課題設定は問題なく、対象の選定も問題ない。
問題を適切にとらえ目標設定されていると思う。

３　普及指導活動の経過、実績及び成果について

費用・収益の把握・分析が十分とはいえない。データが取りづらいという問題があるが、普及において重要であるので避けられない。
普及の成果は、数値目標を達成することではなく、そこに至る過程で農家を動かすノウハウをどれだけ蓄積して活用できるようにするかである。目標にたどり着くためのプロセスを重視すべきで、評価もそのようにあるべき。見えない部分をみることが大切と思われる。
発表された４事業とも、取組はすばらしいが、はつらつ農業塾以外はゴールがよく分からなかった。今の結果で満足いくものなのか？ 県の育成品種に関しては、地域でなく、県としてのゴールを持つべきでは？　クルクマの発表では、LINE といった手近なツールを使った取組がよかった。
関係機関と連携でき、農家の変化が表れていると思うが、成果が出ているかと言われるとまだまだではないか。新規就農者が普及指導員と十分なコミュニケーションを取り、長く農業を続けているよう指導をお願いしたい。
先人が積み上げた成果を受け継いで、次の人にバトンを渡すという普及の継承の重要性が指摘された意義は大きい。そうなると、成果の評価はどのようにすべきかを検討する必要がある。各地域で課題があり、それに取り組んできた長年の過程を改めて振り返って評価することが重要ではないか。あまりに短期的な数値目標で成果を語ろうとする流れは良い結果につながらないように思える。取り組んできた課題の流れを各担当で振り返ることを是非やっていただきたい。それをすることによって将来展望の軸がみえるのではないか。
新規就農者の確保・育成・定着は喫緊の課題であり、尾張の成功事例をモデル化して他地域へも地域事情を考慮しつつ水平展開していただきたい。
対象となる農家群（層）の性質を析出する必要がある。興味を持つ農家層や大きな効果が期待される農家層は、どのような経営かを踏まえる必要がある。
指導員の方の問題ではなく、農業者がどこまで指導員の方の課題に対して理解をしているのか、発表を聞いて非常に心配になった。おだてて育てると発表され、それを参加されている皆さんが実感しているような場の雰囲気に、農業者自身が現状に危機感を持っていないということが予想できた。
必ずしも普及機関が主体となる必要はなく、場合によっては自治体や農協が主体となっている取組を支援する形も評価されるべき。
課題の実態分析を踏まえて多角的にアプローチするとなると、3 年程度の活動期間では短いのではないか。

４　その他

愛知県の普及の歴史を学ぶことは重要で、愛知県の普及を担う誇りを持てるようなきっかけづくりが大切。
デザイン等（ラベルのデザイン、容器のデザイン、ホームページのデザイン、など）への関心が高まっている。１次産業としての「作り方」から、２次産業としての「加工の仕方」、３次産業としての「売り方」へと、農業者の視野も広がってきている。こうした変化を普及活動にどう取り入れて進化させていくのかも、これからの大きな課題になると思われる。
「現場主義」を徹底させることは、普及活動において今後にも重要なこと。
説明・質疑については、適切であった
意欲はどなたも、しっかりと持って見えると感じた
普及指導員の農家への思いは非常にありがたい。これからも農業が衰退しないよう、また遊休農地が増えないように農家に力を貸してほしい。

５　地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

六次産業化や農業・農村の役割の重要性を県民全体に広める活動が重要になってくる。普及の対象は、農業者だけにとどまらないのではないか。少なくとも「関係人口」を増やす取組が求められている。
普及課、ＪＡ、市役所、各部会などとの連携により新規就農者や技術の向上、新品種の改良などの成果を挙げていることは素晴らしいことだと思う。その成果をもっと世間に広めてほしい。
産地としてしっかりまとまるということが、どの発表にも共通する課題だった。個人で直接、消費者に向けて作ると言う農家も今後増えるかと思うが、普及指導員としては、産地をまとめるという働きがますます必要なのかと感じた
女性農業者（オーナー）の育成、働き方の見直し、農業従事者へ向けての経済・環境学習研修
引き続き後継者、新規就農者の育成、定年後の農業　儲かる農業への情報提供
各地域の優良事例の県域への水平展開
各地域・品目で産地をけん引するリーダー農家の育成

６　評価会議について意見（普及事業全般含む）

県―地域―農家群の階層レベルごとのターゲットの絞り込み、アプローチ方法を普及の戦略として明確に位置付けるようにすることが必要と思われる。全体的にターゲットの絞り込みの説明が十分ではなかった。
実績、成果についてはさらに詳しく説明があると理解しやすかった。
４人の報告者と個別にやりとりできたのはよかったが、この４本の報告から県の普及を評価する難しさは残った。
皆さんの熱意は十分に感じた。評価会議で発表された事例を、実績報告会のような形で一般の方々にも発信し、農業の現実に興味を持っていただけたらよいのではと思った。
普及指導員と直接話ができ、疑問に思っていたこと、発表されなかったことなどを聞けて良かった。
前年度に比べ、活動発表頂いた４課題については内容がよく理解できて良かった。